



【お名前】

ひび やすし
日比 保史

【現職（所属）】

コンサベーション・インターナショナル
ジャパン
代表

【略歴】

（株）野村総合研究所、国連開発計画（UNDP）勤務を経て、2003年4月より現職。日本からのグローバルな生物多様性保全の推進に取り組む。企業とNGOの連携、気候変動と生物多様性の関連性を専門とし、植林 CDM 方法論の開発に携わる一方、様々な企業との森林カーボン事業での連携に取り組む。

上智大学地球環境研究所、FASID 国際協力基礎コース、JIFPRO 植林 CDM セミナーなどで非常勤講師。また、三菱商事株式会社 CSR アドバイザー、中間法人モアトゥリーズ評議員、緑の認証機構評議員などを兼務。

共著に『Hotspots Revisited』、『生態学からみた保護地域と多様性保全』など。

【カーボンオフセットに関する取組、一言コメント】

カーボン・オフセットは、これまで内部化されてこなかった環境コストおよび環境価値を経済のしくみの中に取り込むことが出来る画期的な手法です。コンサベーション・インターナショナルでは、2000年ごろから、マダガスカル、エクアドル、フィリピンなどで森林保全によるクレジットの創出や植林 CDM に取り組み、また森林カーボン事業の社会・環境ガイドライン作りにも関わってきました。カーボン・オフセットの成功は、単に気候変動対策や CO2 排出削減だけでなく、生物多様性オフセットなどへの応用も既に取り組みが始まっています。そのためにも、環境十全性を担保したカーボン・オフセットを是非社会に定着させていきたいと思っています。